様　式　Ｆ－７－１

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）実施状況報告書（研究実施状況報告書）（平成２８年度）

1．機関番号　３２６０４

2．研究機関名　大妻女子大学

3．研究種目名　基盤研究(C)（一般）

4．補助事業期間　平成２８年度～平成３１年度

5．課題番号　１６Ｋ０２７３５

6．研究課題名　現代日本語の自他に関する構文的研究

7．研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
１０２０１８９９	フクシマ　ミドリ 福島　みどり（天野みどり）	文学部	教授

8．研究分担者

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名

9．研究実績の概要

本研究の目的は、「構文」という単位の持つ、形式と意味の慣習的結びつきに関する知識が、実際の言語使用場面での意味生成・理解のプロセスにおいて重要な役割を果たすということを、日本語文法論の立場から論じることである。

本年度は、構文研究の成果を広く学ぶための研究会を主催し、日本語事例として恩恵構文「～てもらう・～てくれる」が、「～てもらわないと・～てくれないと」という中断した形（中断節）で、対人関係的な行為要求の意味（＝聞き手に行為をさせる意味）を派生する現象を考察した。特に、使用実態調査から「～てもらわないと」の方が「～てくれないと」よりも頻用されることを明らかにした。この結果を構文的意味が拡張する要因という観点から考察し、「～てもらう・～てくれる」の元々の文構造の違いから「～てもらう」の方が丁寧な行為要求の意味となるためとした。その過程で、構文の意味の拡がりの要因は、統語論的・意味論的・語用論的特徴から多角的に説明できることを示した。この成果は日本語文法学会パネルセッション「構文と意味の拡がり」、国立国語研究所シンポジウム「日本語文法研究のフロンティア ―形態論・意味論・統語論を中心に―」で口頭発表した。

また、自他構文の考察対象となる接続詞的な「それが」文・接続詞的な「それを」文の収集のため、国立国語研究所「現代日本語書き言葉均衡コーパス」・名大会話コーパスを調査し、さらに自然会話を録音し文字化を進めた。

（注）・印刷に当たっては、Ａ４判（縦長）・両面印刷すること。

10. キーワード

(1) 構文　(2) 意味拡張　(3) 恩恵構文　(4) 行為要求

(5) 対人関係的意味　(6) 中断節　(7) 自他　(8)

11. 現在までの進捗状況

（区分）（2）おおむね順調に進展している。

（理由）

主として次年度以降に計画していた構文研究の理論的側面の考察について、研究会・学会・シンポジウムにおける口頭発表と質疑応答を通して、予定以上の進展があった。

他方、本年度の主たる予定であった自他構文の分析のための実例収集については、十分な数量に達したとは言えない。

12. 今後の研究の推進方策　等

（今後の推進方策）

接続詞的な「それが」文・「それを」文に関する実例収集を2017年度の早い段階で終了させ、分析を進めていく。

2017年8月のカナダ日本語教師会で構文研究についての口頭発表をする予定であり、同時に、非母語話者の自他構文に関する逸脱文の意味理解に関する調査を行う。2017年度後半でその調査結果をまとめる。

2018年度以降は予定通りに日本語の自他構文の考察を行う。

（次年度使用額が生じた理由と使用計画）

（理由）

研究成果発表を今年度は国内で行い、特にそのうちの１件は招待のため旅費等の支出が無かったため。

自然会話資料のデータを作成する際、会話協力者に対する謝金が発生しなかったため。また、その文字化を、今年度は準備段階として業者に委託せずに研究代表者が行ったため。

（使用計画）

今年度の研究成果発表は、海外学会での口頭発表を予定する。

今年度の自然会話資料作成については、前年度に出来なかった、画像・音声・文字化の整備を業者に委託して行う。

（課題番号： 16K02735 ）

（注）・印刷に当たっては、Ａ４判（縦長）・両面印刷すること。

13.研究発表（平成２８年度の研究成果）

〔雑誌論文〕　計（３）件／うち査読付論文　計（０）件／うち国際共著　計（０）件／うちオープンアクセス　計（０）件

著　者　名	論　文　標　題
天野みどり	逸脱的「それが」文の意味解釈

雑　誌　名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	国際共著
日英対照　文法と語彙への統合的アプローチ	無	－	2016	320-342	－

掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）
なし
オープンアクセス
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難

著　者　名	論　文　標　題
天野みどり	統語構造の異なりと意味－竹沢論文の類例の検証－

雑　誌　名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	国際共著
日英対照　文法と語彙への統合的アプローチ	無	－	2016	77-87	－

掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）
なし
オープンアクセス
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難

著　者　名	論　文　標　題
天野みどり	母語話者と非母語話者の逸脱文の意味解釈

雑　誌　名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	国際共著
日本語文法研究のフロンティア	無	－	2016	127-144	－

掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）
なし
オープンアクセス
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難

（課題番号： 16K02735 ）

（注）・印刷に当たっては、Ａ４判（縦長）・両面印刷すること。

〔学会発表〕　計（２）件／うち招待講演　計（１）件／うち国際学会　計（０）件

発　表　者　名	発　　表　　標　　題	
天野みどり	構文と意味の拡がり－総論	
学　会　等　名	発表年月日	発　表　場　所
日本語文法学会第17回大会パネルセッション	2016年12月11日	神戸学院大学

発　表　者　名	発　　表　　標　　題	
天野みどり	構文の意味派生の推進と抑制 －テモラウ構文とテクレル構文を例に－	
学　会　等　名	発表年月日	発　表　場　所
国立国語研究所シンポジウム「日本語文法研究のフロンティア －形態論・意味論・統語論を中心に－」（招待講演）	2017年03月11日	キャンパスプラザ京都

〔図書〕　計（０）件

著　者　名	出　版　社	
書　　名	発行年	総ページ数

14.研究成果による産業財産権の出願・取得状況

〔出願〕　計（０）件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	出願年月日	国内・外国の別

（課題番号： 16K02735 ）

（注）・印刷に当たっては、Ａ４判（縦長）・両面印刷すること。

〔取得〕　計（０）件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	取得年月日	国内・外国の別
				出願年月日	

15.科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計（０）件

国際研究集会名	開催年月日	開催場所

16.本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

（１）国際共同研究：－

17.備考

（課題番号： 16K02735 ）

（注）・印刷に当たっては、Ａ４判（縦長）・両面印刷すること。